

浜松市在住外国人メンタルヘルス相談の実施について

健康福祉部精神保健福祉センター ○益井多美子 高林智子 二宮貴至

1. はじめに

浜松市は、自動車工業を産業基盤とした外国人集住都市であり、外国人の約半数をブラジル人が占めている。平成20年度後半から深刻化した経済状況の悪化に伴う外国人へのメンタルヘルスの実情や傾向を把握するため、浜松市精神保健福祉センターでは、平成21年度に浜松市在住のブラジル人を対象にした大規模な実態調査を行った。その結果を得て、平成22年7月1日より全国の自治体で初めて、浜松市多文化共生センター内に、ブラジルの母国語でメンタルヘルス相談ができる常設の「外国人メンタルヘルス相談窓口」を開設した。

今回は、その実施状況及び課題について報告する。

2. メンタルヘルス実態調査

1 質問紙調査

- (1) 対 象：浜松市に外国人登録をしている16歳以上のブラジル人のうち、無作為抽出された5,000人
- (2) 実施期間：平成21年12月1日から14日
- (3) 調査方法：無記名自記式質問紙調査
- (4) 調査内容：個人属性・健康に関すること・自殺に関する意識・自由記載
- (5) 結 果
 - ① 回 答 率：17.6%（うち日本語版での回答率9.7%）
 - ② 抑うつ状態：抑うつ状態が疑われる（CES-D16点以上）30%
 - ③ 相 談 相 手：誰もいない5.7%、親族76.8%、知人46.6%、外部機関18.5%
 - ④ 自殺念慮の有無：あり8.6%、なし91.4%

2 個別面接調査結果（ブラジル人のメンタルヘルス専門家による60～120分の面接調査）

- (1) 対 象：質問紙調査で個別面接調査に同意した者
- (2) 実施期間：平成22年1月から2月
- (3) 調査方法：来所による個別面接調査
- (4) 調査内容：全生活史を中心に、来日の経緯、家族構成、経済危機前後の仕事と家族生活に関する変化、子どものこと、人間関係・団体・行事への参加、アイデンティティ、日本語学習、多文化ストレス等
- (5) 結 果：労働環境と言語や文化の違いによるストレス、経済的問題による家族関係の悪化、医療受診の問題などが語られた。自殺念慮者が自殺を考えるように至った要因は複数であり、自殺を考えたことのない人も日常生活で何らかのストレスを感じていた。そこから、母国語による心理的支援、一般コミュニティへの啓発の必要性が示唆された。

3. 事業概要

1 浜松市在住外国人メンタルヘルス相談

- (1) 開始時期：平成22年7月
- (2) 場所：浜松市多文化共生センター
(公益財団法人国際交流協会（HICE）内)
- (3) 相談員：1名（平成23年4月より相談員2名）



2 精神科医療通訳派遣

- (1) 目的：精神科医療機関における円滑な診療と医師患者関係の促進
- (2) 開始時期：平成23年7月
- (3) 内容：
 - ・精神科外来通訳派遣事業
 - ① 対象：精神科受診や専門相談機関への紹介が必要な外国人
 - ② 期間：原則として3ヶ月程度…継続した相談や治療が必要な場合は民間通訳者へ引き継ぐ
 - ③ 機関：浜松市内の精神科医療機関、専門相談機関
 - ・精神科病院通訳派遣事業
 - ① 対象：浜松市内精神科病院に入院中の外国人
 - ② 方法：病院内の公衆電話からHICE専用回線にて相談

4. 結果

ブラジルの心理士資格を有した相談員による無料のメンタルヘルス相談を開始し、平成22年度の相談件数は697件と想定をはるかに超えた。そのため、平成23年4月から精神科医療機関で通訳経験のある心理相談員を1名増員することとなった。浜松市外や県外からの相談も見られ、外国語によるメンタルヘルス相談の必要性を実証させるものとなった。平成23年度の相談件数は、平成23年10月末現在で511件となっている。

開設場所となった多文化共生センターは、雇用・労働相談や教育相談などワンストップ相談窓口となっており、その中にメンタルヘルス相談が追加されたことはメンタルヘルス不調者の早期発見という観点においても意義深いものとなっている。

平成23年7月からは、メンタルヘルス相談窓口に精神科医療機関で通訳経験のある心理相談員を増員し、言葉の問題で困難を抱える相談者や医療機関を支援する体制を整えた。

5. 考察

メンタルヘルス実態調査では、経済危機下での失業や収入減を背景に、複合的な要因による精神的なストレスを負っているブラジル人の実態が明らかになった。ブラジルへの帰国も現実的には困難である場合が多く、これまで以上に閉塞感や絶望感を感じている状況も認められた。ブラジル人の自殺率は日本に比べて低く、人口動態統計による平成21年の在日ブラジル人の自殺者数も12人であるが、この調査結果を鑑みれば、在日ブラジル人は日本人と同様、あるいはそれ以上に精神的に追い込まれながら、主には宗教的あるいは文化的な自殺の抑止力のもとで日本での窮状を生き抜いていることがわかる。ポルトガル語によるメンタルヘルス相談窓口開設直後から相談件数は想定を超えて急激に増加し、相談の質を確保するために時間枠の設定等で対応する必要も生じるほどであった。

メンタルヘルス相談窓口における相談内容は、小児・児童は発達障害や教育上の問題、成人は家族関係の問題や性の問題等、多岐にわたっている。通訳を介さないブラジルで生まれ育った相談員によるカウンセリングにおいては、心理的にも文化的にも受容・共感が容易である。さらには、精神病状態が疑われ、文化的背景を理解していなければ妄想か否かの判断が困難な場合においても、評価が適正にできるなど、多文化診療の視点で重要な役割を担うことが可能である。平成23年7月より精神科医療通訳派遣事業を実施しているが、これにより相談員の役割は、メンタルヘルス相談と両輪をなすものとなっている。メンタルヘルス実態調査における精神科医療機関の受診者は0.6%と少なく、今後もそのニーズは増していくものと思われる。2人の相談員は相談支援ばかりではなく、総合的ブラジル人メンタルヘルス対策という広い視点で普及啓発、人材育成支援も精力的に行っており、今後も彼らのさらなる活躍に期待したい。

浜松市在住のブラジル人は、平成20年のリーマンショックの影響により、平成19年時点で最多の1万9千人強から、平成23年7月1日時点で1万2千人台へと激減している。コミュニティ構成人数の減少は人的ネットワークの断絶を加速しているとも考えられ、昨今の経済不況の再燃も考え合わせれば、今後とも外国人のメンタルヘルス支援を強化していくことが必要であろう。

メンタルヘルス相談

Consultas Psicológicas

Auto Conhecimento
Ansiedades Crises Estresse Depressão
Medos Fobias Síndrome do Pânico
Adaptação Cultural Auto-Estima
Dependência Vícios Sexualidade
Conflitos Relacionais Conjugais Familiares
Dificuldades Vocacionais Educação
Orientações Vocacionais Profissionais

O Centro Multicultural de Hamamatsu oferece atendimentos psicológicos com profissional brasileiro. Para ser atendido(a), agende um dos horários disponíveis.

☎ 053 458-2310 9:00hs a 17:30hs
agendamento

Local: Centro Multicultural de Hamamatsu
7430-0925 Shizuoka-ken Hamamatsu-shi
Naka-ku Sunayama-cho 324-8
Daiichi Ito Building 9F
(053) 458-2170 <http://www.hi-nice.jp/mhc/consultation>

浜松市 文化共生センター
HAMAMATSU MULTICULTURAL CENTER